

日本労働年鑑 第73集 2003年版  
The Labour Year Book of Japan 2003

特集 メンタルヘルス問題と職場の健康—その現状と対策

はじめに

近年、はたらく人のメンタルヘルスの悪化が急速かつ広範に進んでいる。かつての国民病であった結核に比べると、経済社会に与える影響は桁違いに大きい。この問題は私たちにとって深刻であると同時に、現代の社会・経済体制とは何かということを考えなおす意味深い契機も与えてくれる。本稿ではメンタルヘルス問題を考える場合に、最小限必要となる知見を示した。その第一はメンタルヘルスの悪化は、どれほど進行しているのか、第二はそれは何故おこり、個人と家族、経済活動に何をもたらしているのか、そして第三に、それへの対処はどのようになされているのかということである。

さらに、本特集はいくつかの興味深い問いを提起する。その一つは、少なくとも二〇年以上前にはこのようなメンタルヘルスの問題が発生していなかったのは何故か、いいかえれば高度経済成長の時代にうつ病が少なかったのはなぜなのか、第二に、欧米諸国や他のアジア諸国では、この問題はどのような状況になっているのかである。

これらの問いの解明には、医学、経済、社会、教育、法律などさまざまな学問の領域を含む横断的な視点に加えて、脳という器官、個人、家庭、事業体、自治体、国家、世界という、社会と個人をめぐる階層構造を捉える縦断的な観点も必要となろう。以下では、メンタルヘルス悪化の具体的な事実、対策の現状をありのままに示し、今後、この問題に対処していくための資料を提供する。

日本労働年鑑 第73集

発行 2003年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 旬報社

2006年8月4日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑第73集【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)